第22号
2010.3

あきた留学生交流

「秋田の農家民泊」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

あきた留学生交流

第22号
2010.3

表紙題字
秋田大学教育文化学部
長 沼 雅 彦 教授

CONTENTS

1 冒頭言
国際教養大学
学長　中嶋　嶺雄

構成員大学からの寄稿
2 「国際化」のハードとソフト
— 秋田大学の取り組みから —

留学生からのメッセージ

3 外国人として秋田で暮らした一年
ノースアジア大学法学部観光学科交換留学生
朴 チャアミ（韓国）

4 秋田は勉強に最適です！
秋田県立大学生物資源科学研究科
生物機能科学専攻博士前期課程1年
劉　成偉（中国）

5 私の留学記
国際教養大学国際教養学部所属
キラ・ワルドロン（オーストラリア　ラ・トローブ大学2年）

6 新しい世界
秋田工業高等専門学校第5学年環境都市工学科
イット ウィサル（カンボジア）

7 留学生活で体験したこと
秋田大学工学資源学部環境応用化学科2年
グェン ティー スェン（ベトナム）

8 私の第二のふるさと
秋田大学教育文化学部
国際言語文化課程日本・アジア文化選修4年
佐藤　圭（日本）

9 卒業生から励ましの声
5年間の日本生活
アルプス電気株式会社HM&I事業本部
キム ジョンヒョン（韓国）

10 留学生交流事業
秋田の農家民泊 — 体験から持続的交流へ —

国際交流団体等の活動紹介

11 あきたのファミリー
㈶秋田県国際交流協会（AIA）

12 Think globally, act locally
— ふりかえりと新たなであいを —
秋田県国際交流をすすめる女性の会：わぴえ

13 寺子屋キャラバン
— アフガン人が語る寺子屋のいま —
秋田ユネスコ協会

14 年に4回、賑やかに交流の催し
秋田地区日中友好協会・県日中女性委員会

15 研修団受け入れ、留学生を通訳に
帰国した留学生らが友好協会を設立
秋田モンゴル友好協会

16 私たち地球人をめざして
国際交流オープンクラス

17 留学生交流事業の紹介
秋田県立大学、国際教養大学、秋田大学

19 秋田地域留学生等交流事業
秋田地域留学生等交流推進会議

20 平成21年度国際交流事業の実施状況

23 留学生関係資料
秋田県内留学生等の受入れの推移（各年10月1日現在）
住居形態別留学生数（平成21年10月1日現在）
秋田県内留学生等の出身国･地域別在籍状況（平成21年10月1日現在）
日本全体の留学生数の推移（各年5月1日現在）
出身国（地域）別留学生数（平成21年5月1日現在）
地方別・都道府県別留学生数（平成21年5月1日現在）

27 平成21年度秋田地域留学生等交流推進会議
推進会議事要旨、運営委員会議事要旨
秋田地域留学生等交流推進会議要項
秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項
秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ
秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿
秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿
秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

31 推進会議へのご意見・情報提供について

冒　頭　言

国際教養大学
学長　中　嶋　嶺　雄

グローバル化の進展にもかかわらず、最近は世界的な経済危機や秋田県における経済活動の低下によって、本県では外国人登録者数が減少傾向にあるという。秋田県にとっては決して好ましいことではない。

一方、本県への留学生の数は増加傾向にあるとのことでこれは朗報だといえよう。主な受入れ先として、秋田大学、秋田県立大学のほか、2004年に開学したグローバル・スタンダードの国際教養大学が全学生の1年間の海外留学を義務付けていて海外の大学との交換留学を推し進めているため、世界のトップレベルの大学約100校からやって来る留学生も年々増加しつつあり、秋田県へ留学する学生数が全体的に増えているからだといえよう。この点では、国際教養大学は国際貢献のみならず、地域貢献にも役立っているといってよいであろう。現に一学年定員わずか150名の国際教養大学に昨年9月1日に始まった秋学期に入学した留学生は全世界各国・地域から116名、継続している留学生が13名、この冬学期には台湾の淡江大学から短期のウィンタープログラムに20名の学生がやってきて、雪の秋田を満喫するとともに、きわめてレベルの高い日本語のプレゼンテーションを展開して、私も大変感激した。

四季折々、秋田におけるキャンパスライフには東京では絶対に味わえない醍醐味がある。本学の場合、春から秋にかけて、私が居住しているゲストハウスのプラザクリプトンからキャンパスの学長室まで、秋田杉の小径を10分ほど散策して着くことができる。5月頃は水芭蕉の白い花の群生を見ながら、また秋には美しい紅葉の木々を潜り抜けて来ることができる。さらに、夏の竿燈まつりへ参加する留学生は日本人学生とともに練習を重ねて真剣に参加している。雪を見たことのないシンガポールや台湾などからの学生は、沖縄や奄美大島、五島列島などの日本の暖かい地方からの学生とともに、冬に校庭で「かまくら」を作って大喜びしていた。大学が東北、特に秋田に存在すればこその恩恵であって、私も大変満足している。

これからも秋田の地が留学生にとってまたとない「日本再発見」の場となるべく、本学もより一層の国際貢献・地域貢献を続けていきたいと思っている。

構成員大学からの寄稿

「国際化」のハードとソフト

― 秋田大学の取り組みから ―

秋田大学は現在、吉村昇学長のマニフェストを受け、全学的に「国際化」に取り組んでいます。平成20年2月の国際交流センター設立を皮切りに、国際交流センター専任教員の採用と職員の増員、留学生の受け入れと本学学生の海外留学促進のための各事業など、矢継ぎ早とも言えるスピードで新たな取り組みを実施しています。

「国際化」の一つの指標として、本学では、平成25年度に入るまでに留学生を200名以上受け入れるという目標を掲げました。

数値目標は目に見えるわかりやすい指標ですが、実際に目標を達成しようとすれば、目に見えやすいハード面だけでなく、見えにくいソフト面からも戦略を立てていくことが必要になります。

本学で行っているハード面での取り組みをご紹介すると、協定校等からの大学院留学生・交換留学生を対象とした独自奨学金の立ち上げ、国連大学貸与事業の積極的活用、新たな留学生用寮の建設（予定）、工学資源学研究科による、協定校からの留学生に対する推薦入試制度の実施、工学資源学部による、渡日前入試制度の実施（平成23年度開始）などを挙げることができます。

ただしこうしたハード面は、ソフト面すなわち精神的･理念的側面の裏付けがあって初めて、実施されるべきものでしょう。留学生に関して言えば、本学にぜひ入学したい、本学を選んでよかったと思えるような場所とするという目標がまずあって、その次にそれを実現するために、入試制度や奨学金制度の充実、住居等の整備が必要ということになります。さらに重要なのは、本学の留学生以外の学生や職員･教員にとって、留学生を受け入れたい、受け入れてよかったという気持ちを共有してもらうことです。そうした意識の基盤が背景としてあればこそ、留学生を受け入れやすくするためのさまざまな制度が求められることになるでしょう。

こうしたソフト面の充実を図るべく、本学国際交流センターでは「国際交流センターニュース」を創刊しました（平成21年12月創刊、http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/in_press_campus.html）。多様な人々が集うことは、お互いの生き方に新たな可能性をもたらすはずです。それはどんな可能性なのか。センターニュースを通じて発信を続けます。

（秋田大学国際交流センター専任教員　牲川波都季）

国際交流センター長との懇談会

留学生会館でののBBQパーティーティ

国連大学貸与事業学業報奨金授与式

日本留学フェア（ベトナム）

外国人として秋田で暮らした一年

ノースアジア大学
法学部観光学科 交換留学生
朴 チャアミ（韓国）

「冬になったら雪の多い所」これが、私の秋田について知っていたほぼ全てであった。

一般的に旅先としてはあまり知られてない所なので（今は韓国ドラマの「アイリス」の撮影地として以前に比べては知られているが。）インターネットや旅行パンフレットにもほとんど載っていなかった。

「どんな所だろう。私が1年間生活するところは。バスやJRもない所だったらどうしよう？」という不安もあった。そしてその年の4月、私は秋田に到着した。秋田空港から秋田市内へ移動する途中に童話の中に出てきそうな小さくてかわいい住宅が私の心をとらえた。子供の頃からずっと高層ビルやアパートに囲まれた都市に住んでいた私にとって新しい刺激であった。「空が広く見えるちょっとだけ繁華した小さい都市」秋田に着いたときの初めての印象であった。

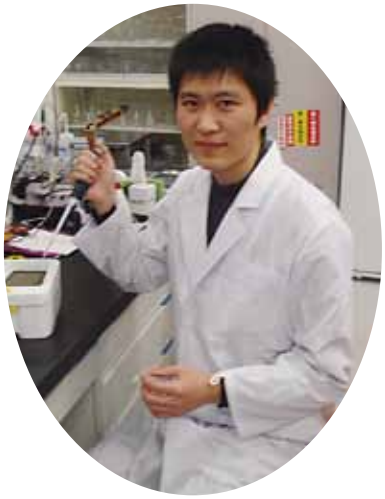
新学期が始まり、私は不安な気持ちのまま大学へ通い始めた。友達を作ることは思ったより大変だった。多分、日本人も韓国人も、自ら近づくよりは相手の方から近づいてほしい恥ずかしがりやな性格を持っているからだと思う。私は特にそうであった。しかし、ずっと悩んだ末、私はフォトサークルのドアを叩いた。「外国人だから負担になったらどうしよう。気まずい雰囲気になったらどうしよう。」という私の考えは杞憂に過ぎなかった。フォトサークルの皆は、私がサークルに入ってから、私のことを「外国人」ではない「普通の部員」として接してくれた。私はそれが本当に嬉しかった。留学の経験がある人なら同感するだろう。

秋田生まれの友達は、いつも秋田のことを「何もないちっちゃくてつまらない所だよ。」と言っていた。しかし、秋田は素敵な所である。夏になったら全国を代表する祭りの一つである「竿燈祭り」が開かれ、冬になったら秋田の象徴の「ナマハゲ祭り」が開かれる。また、秋田小町とキリタンポという秋田だけの特産物もある。本当に何もないつまらない所だったら旅行客がくるはずがない。でも、秋田はいつも旅行客で混んでいる。秋田生まれの人は、こんなにすばらしい秋田の魅力がいつものことだったから、当然過ぎて忘れていたのではないだろうか。

2週間後、私は自国の韓国に帰る。この10ヶ月間、私は何にも代えられない貴重な経験をして、誰にも代えられない大切な友達ができた。外国人として、外国で生きて行くのが決して簡単ではないということも知った。いくらお互い影響をされた隣の国だとしても、文化の違いが相当あることもわかった。本当に、教科書や本では学べないたくさんのことを学んだ。

これから私はまた色んな経験をして様々なことにぶつかるだろう。その時、ここで得た経験を教訓として忘れずに生かしていくと思う。

また会えるといいな、アキタ。



秋田は勉強に最適です！

秋田県立大学
生物資源科学研究科生物機能科学専攻博士前期課程1年
劉　成偉（中国）

日本には世界最高レベルの技術と知識を学ぶ環境があり、最近では2008年に4名の日本出身の研究者がノーベル賞を受賞するなど、様々な分野で優れた研究者を輩出しています。

現在私が在籍している秋田県立大学生物資源科学研究科では、資源エネルギーや環境、食糧問題などの研究が進んでいます。統計によると、2050年に世界人口は90億人を超え、再生可能な生物資源と人類の持続的な共存関係の樹立を果たさなくては人類の生存は厳しくなります。そのための適切な技術を確立することが私の使命と考えています。

私は県立大学で最先端の設備と経験豊富な先生方によって多くのことを学んでいます。日本語能力はまだ不十分ですが、皆様が親切に熱心に支援してくれるので、安心して勉強と生活ができます。このすばらしい環境で、もっと深く生命科学を勉強し、先進的な技術を身につけて将来に役立てたいと思っています。

秋田県は四季折々の豊かな自然と生物資源があり、人々は優しく、高いレベルの研究者もいて、勉強をするには最適な環境です。日本への留学経験は私の人生にとって大きな財産になると思います。

秋田の皆様、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

私の留学記

国際教養大学
国際教養学部所属
キラ・ワルドロン
（オーストラリア　ラ･トローブ大学 2年）

私はオーストラリア人留学生のキラ・ワルドロンです。メルボルンにあるラ・トローブ大学から来ました。2009年8月から秋田にある国際教養大学に留学しています。これまで海外に行ったことがなかったので、日本に初めて着いた時は心配事がたくさんありましたが、たくさん楽しい事もありました。

大学に来る前、一週間東京に泊まることにしました。一人で東京にいって生活することは、十九歳の女性としてはとても不安でしたが､今、それは大切な経験だったと思います。私はいつも両親を頼っていました。例えば、ご飯を作ってもらったり、洗濯してもらったりなどです。でも、東京では全部自分でしなければなりませんでした。この経験で大学に住むことに備えられたと思います。秋田に来る前、私は一人で日本語と日本の生活のことを学んでいました。そして、秋田に着いたら、もっと自分に自信が持てるようになりました。

実は、私は六ヶ月だけ国際教養大学で勉強するつもりでしたが、雰囲気がよくて人々がやさしいから、ここで一年間勉強することに決めました。秋田県のおかげだと思います。まだ帰ることを考えていません。大学でたくさんの機会を利用して、秋田のいろいろな面を見ることができました。私の国より歴史があるお寺にも行きました。授業で何度も旅行に行きました。平泉や小坂というところに行って、日本人もあまり知らないかもしれないような史跡も見ました。

留学生の生活は勉強することに限られていると思いましたが、私は秋田でALTと家庭教師と試験官として働いています。いろいろな小学校と中学校で、生徒に会い、先生と話しました。たくさんの大切な友達を作り、もっと秋田県のことを理解するようになりました。特に八峰町の八森小学校です。毎月この小学校に行くたびに、いつもやさしく丁寧に挨拶をされます。そんな時はとてもうれしくなります。実は、私の専攻は経理と日本語でしたが、この経験をしてから､先生になりたいと思うようになりました。秋田は間違いなく、私を変えました。来学期も楽しみにしています。

新しい世界

秋田工業高等専門学校
第5学年環境都市工学科
イット　ウィサル（カンボジア）

私はカンボジアから来た留学生で、平成18年度に来日し、一人暮らしが始まりました。平成19年度、東京日本語学校を卒業後、秋田高専に編入することになりました。

秋田高専に編入することが決まったのは、日本に来る3ヶ月前のことでした。日本のこと、特に日本語の知識の全くない私は、早速初めて聞いた「Akita」と言う言葉をインターネットで調べて見ました。雪が多い地域だと分かったとき、私は“ラッキー”だと感じました。なぜなら、母国で体験できないことをできるようになると思ったからです。

来日してからの一年間は東京で過ごしましたが、新しいのは周りの環境だけです。たくさんの同国からの友達と一緒に住んだり、毎日国の料理を作ったり、国の言葉を喋ったりしたので、国での生活とはあまり違いませんでした。しかし、秋田に来てからそれまでの生活が変わりました。寮に入り、本番の日本での生活が始まりました。以前、英語や母国語を多く使った私は日本語しか通じない世界に入ってきました。食事や点呼など、毎日寮生と同様に行います。その上、とても困ったのは毎日の授業でした。先生の説明や授業の進み方は一人だけの留学生のペースに合わせられないので、普通の学生に比べて数倍頑張らなくてはいけません。寮に入ってからの三ヶ月には、“面倒くさい毎日の点呼、だんだんあきてきた食事、授業での難しい日本語の辛さ”が印象的でした。

しかし、その不便さと辛さがあったからこそ、私は以前より成長したと思っています。なぜかと言うと、まず、料理できない私は食堂の食事が口に合わなかったとき、自分で作れるようになりました。そして、以前朝寝坊してしまって朝ごはんをほとんど食べられなかった生活していた私は、点呼のおかげで毎日ちゃんと早く起き、朝ごはんを食べ、遅刻なく登校しています。勉強の方も早く慣れて、いい成績を修めることができたのはそのきっかけの一つだと私は思っています。

今、私は何も困ることがなく、多くの日本人の友人と仲良く、勉強や寮での生活を楽しくしています。秋田で成長した私は、帰国後も、秋田での生活を忘れません。帰国後20年ほど経ったら、もう一度秋田を見に来たいと思います。

留学生活で体験したこと

秋田大学
工学資源学部環境応用化学科2年
グェン　ティー　スェン（ベトナム）

2006年3月に日本語も日本の習慣も全く知らないままで、盛岡に来ました。暖かいベトナムから来た私は初めて雪が見れて、とってもびっくりしましたが、嬉しいと感じました。「やっと雪が見れた、触れた」と心の中で喜びました。初めて、親を離れて、毎日朝学校で日本語の勉強、午後からアルバイト、深夜は自分で日本語の復習、理科の勉強という流れでした。人生の大変さをしみじみ感じました。今まで接したことのない盛岡の厳しい冬に何回も病気に倒れました。雪に慣れないため滑ったり、転んだりしました。あまり日本語を話せない私は初めてアルバイトをする時にとっても大変でしたが、どんなことがあっても、諦めないことを決心しました。日本語の勉強を一生懸命頑張りました。だんだん日本語が話せるようになったら、お客さんから“頑張ってね、偉いね”などと褒めてくれた言葉で、私はもっと頑張ると強く決心しました。2年間盛岡で生活を送り、自分が成長したと思いました。盛岡での生活の経験は私の人生の宝物です。二年間頑張った結果、私は秋田大学に入れました。私の夢まで一歩前進しました。

秋田に来て、本当に良かったと思っています。皆さんが優しくて、落ち着く環境で、新しい大学生活をすぐ慣れて、勉強に集中できます。学校の留学生係で色々な国際交流活動を作ってくれますから。専門分野が勉強できるだけではなく、国際交流活動に積極的に参加できて、たくさんの友達ができています。日本に来る前に素敵な着物をぜひ一度着てみたいと思いました。やっと去年に着物体験により着物を着ることができ、さらに茶道の知識が少し分かるようになり、とてもうれしかったです。それで、大学での生活が楽しくなり、日本の伝統文化を勉強することができ、留学生活がもっと充実していると思います。これからもいろいろな交流活動に参加して日本の異文化などを身につけたいと思います。

私の第二のふるさと

秋田大学
教育文化学部国際言語文化課程日本・アジア文化選修4年
佐藤　圭（日本）

高校の頃みた韓日共同制作ドラマから、韓国に興味を持ち始めた私は、大学でも主に韓国の文化や言葉を学んでいました。大学3年生が終わって、急遽決まった私の韓国留学は、今までの刺激のない毎日から向けだし、自分を見つめなおす大事な1年となりました。

私が行った円光大学は主に留学生は午前中に授業があり、午後からは自分の時間として楽しむことができました。最初の半年間は、語学堂の80%が中国人で、私が入った中級のクラスでも、約15人中14人が中国人で、残り一人が私、日本人でした。初めは中国に留学に来ているのかとも錯覚するくらい、中国語が飛び交っており、この中でやっていけるのか本当に不安でした。しかし、日本人が少ないということもあり、中国人のクラスメートも、私と会話するために、今までクラス内は中国語だった環境が、みな一生懸命韓国語で話してくれるようになりました。この最初のクラスの友達は、今でも連絡を取り合い、1年に1回は集まる仲となりました。

私は寮に住んでおり、韓国人の子と2人部屋だったのですが、韓国語がまだ全然できなかった私に、初めて会ったときからとても親切に対応してくれて、初めはジェスチャーなんかを交えながらお互いの意志を伝え合ったりして、親友と呼べるくらいの仲になりました。彼女も日本語を勉強していたので、試験前にはお互いに教えあったりもしました。

後半の半年は、国費留学の友達が入ってきたため、ロシア、インド、タイ、マレーシア、ベトナム、ミャンマー、そして中国と日本とさまざまな国の友達と一緒に勉強しました。授業中も色々な国の文化についても聞くことができたりしてこんなにも文化が違うのだなとびっくりすることもありました。休みの日や、授業のない日は、みんなでビリヤードをしにいったり、お酒を飲みに行ったりと、本当に楽しい毎日を送っていました。

日本の大学にいた時は、毎日やることがなくて家でダラダラしていることも多くあったのですが、韓国では毎日何もなくても外に出て、友達と遊んだり、いろんな所に行ってなるべく韓国語に触れたりと、忙しく充実した毎日を過ごしていました。留学にいくことが、もしなかったならば、そんなダラダラしていた生活を普通と考えてしまい、何の目標もないまま、卒業して就職していたのかなと思うと、どれだけ時間を無駄にしていたのかなと考え直すことができました。またこの1年韓国に住むことによって、自分は本当に韓国が好きで、文化の違いなんかはあるけれども、もっとこの国について知りたいし、韓国語をこれからも勉強していきたい、何よりも韓国語を使う仕事につきたいという将来の目標というものを見つけることができました。この韓国留学がなかったら今の私は無いといっても過言ではありません。韓国留学中に出会った友達は、一生大事な友達です。また必ず韓国に戻り、韓国で生活したいと思うくらい私にとって韓国は、第二の私の帰るふるさととなりました。

5年間の日本生活

アルプス電気株式会社
HM&I事業本部
キム　ジョンヒョン（韓国）

私は2004年3月から秋田県立大学に留学しました。そのきっかけは研究室の教授から交換留学を勧められたことです。以前から日本に興味を持っていて2年間日本語の勉強をしていた私にとってはいい機会になると思い、留学を決めました。

秋田県立大学に交換留学し、電子情報システム学科通信システム学研究グループの先生方のご指導を頂いた縁で、大学院に進学することになりました。留学生活はさびしくなると思っていましたが、教授の皆様のみならず、日本人学生、地域住民、秋田地域留学生等交流推進会議の方などから温かくしていただき、楽しい留学生活を過ごすことが出来ました。私にとって留学とは、ただ日本で勉強するということだけではなく、日本の文化、日本人の生活・意識・思想を理解し、自分の視野を広げる機会にすることだと考えています。多くの方に親切にしていただき、私にとってもとても良い機会となりました。

卒業が近づいたとき、就職を日本でしようと思いました。その理由は大学院在学中に、アンテナの研究を行った経験を活かすとともに、最先端の日本の技術を学びたかったからです。しかし、就職活動をするときには私が外国人であることで先入観を持たれるのではないかという心配もありました。しかし、それは私の間違いでした。最近ではどの企業でもイメージしていたような純日本企業というより、グローバル企業へ進化しています。社員も国籍に関係なく募集しています。そのため、留学生たちが日本で就職する機会も多くなっています。私が就職したアルプス電気（株）でも世界各国に工場、拠点があり、所属する部署には私以外にも中国人、チェコ人の社員もいます。さらに中国の工場で2ヶ月間の研修もありました。この研修では日本人、中国人の同期たちと国籍に関係なく世界における会社員として同じ教育をして頂きました。このようなことから、私が勤める会社は日本のためではなく世界の人々のためにあることを知り、同時に自分のためであることが分かりました。

最後に日本に留学する学生たちに一つだけ伝えたいことがあります。留学中に出来る限り色々な経験を積み、自分の視野を広げる機会を作ってほしいと思います。その経験はいつかきっと自分の発展につながると思います。

留学生交流事業

秋田の農家民泊

― 体験から持続的交流へ ―

秋田地域留学生等交流推進会議では、「秋田の農家民泊－体験から持続的交流へ－」（（財）中島記念国際交流財団助成、（独）日本学生支援機構実施事業）と題し、2回にわたり留学生のグリーン・ツーリズム体験事業を実施しました。

10月3、4日の「農業体験ツアー」では、秋田県仙北市西木町で農業体験と農家民泊を実施。全員そろってのオリエンテーションの後、各受け入れ農家へ移動し栗拾い、アケビ取り、ゆべし作り、新米のモミすりと袋詰め、その袋の積み上げ作業、枝豆取り、大豆のサヤ取り、春菊の収穫、秋田ならではのきりたんぽ作りなど、グループごとにさまざまな農作業を体験しました（**写真1**）。その日は農家に宿泊し、地元の食材を使った夕食をいただきながら交流を深めました。次の日は、仙北市西木町のかたくり館で「外国人留学生の農業体験を考える会」を実施し、各グループで農作業や農家民泊体験の魅力や改善点について議論を行い、その内容を発表しました（**写真2**）。それぞれ特徴的な発表で、留学生だけでなく、農家の方も熱心に聞き入っている様子でした。お世話になった農家の方々と別れた後は、たざわこ芸術村で手びねりの陶芸制作に挑戦し、茶碗や花器、置物など思い思いの作品を作りました。その後バスで大学へ戻り、11月の再会を約束して解散しました。

写真1

写真2

かたくり館で行われた11月7日の「収穫感謝祭ツアー」では、約1ヶ月ぶりの農家の方々との再会を喜ぶ声が、あちらこちらから聞かれました。昔ながらの臼と杵を使ったもちつきでは、杵の重さにふらふらする留学生もいましたが、「どっこいしょ」のかけ声とともに、もちつきを楽しみました（**写真3**）。お昼にはみんなでつくったもちを食べながら交流会を実施し、色とりどりに並んだもち料理に歓声をあげながら舌鼓を打っていました。昼食後には、前回撮影した写真をまとめたアルバムをお世話になった農家の方に感謝の意を込めプレゼントし、また、西木町特産の和紙を使った名刺に連絡先を書いて交換し、再会を約束してかたくり館を後にしました（**写真4**）

写真3

写真4

あきたのファミリー

㈶秋田県国際交流協会（AIA）

「あきたのファミリー」は、秋田で学んでいる留学生を気軽に家庭に呼んでひとときを共にしたり、会えないときは電話で話したりと、留学生にエールを送りながら自由に交流する活動です。留学生はもちろん、ホストファミリーの皆さまにも、この交流を通じて相互の理解を深めてもらうことを目的として平成18年から実施しています。

平成21年は、春と秋の2回募集を行いました。延べ81家族と24カ国134人の留学生から申し込みがあり、全てのファミリーに留学生を紹介することができました。

対面式では、最初、緊張した様子でしたが、自己紹介やゲームを楽しみながら交流がスタートしました。

参加したファミリーからは、「子ども達に英語の本の読み聞かせをしてくれました。」「初対面で手土産をもらいびっくりしました。」「留学生が国の料理を手作りしてふるまってくれました」「フレンドリーな笑顔は全世界共通で嬉しく感じました。」と交流の印象を語ってくれました。また、留学生からは「家族の暖かさを体験できました。」「日本人の生活習慣や日本食の作り方を学びました。」「自分の息子のように接してくれて感激しました。」「言葉の壁がこの体験をよりよいものにしてくれた。」という感想が聞かれました。今後もファミリーと留学生の交流が広がっていくことを願っています。

対面式

交流会

交流会

Think globally, act locally

― ふりかえりと新たなであいを ―

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わぴえ

国際理解に関する学習や交流活動を通して世界の平和ならびに地域の振興に貢献することををめざして設立された「わぴえ」も今年25周年を迎えることとなった。

Think globally, act locally の大テーマのもと四半世紀のあゆみをふり返り、時代に即した新たな活動の在り方を考える一年としてスタートした。

海外研修も第一回目の韓国スタディツアーをふり返りそして見直しの旅として、在韓日本人妻の会「ナザレ園」を訪問。まさに百聞は一見に如かず、戦争の悲惨さがひしひしと伝わり、まだ戦争が終わっていない?　とそんな感をいだきました。訪れた誰もが支援を続けたいと願わずにはいられなかった。

「わぴえ奨学プラン」は1992年から女子私費留学生にささやかではあるが、図書費として奨学金を支給しております。今年度は秋田大学生3名（中国、ベトナム、韓国）県立大学生1名（中国）計4名の方に支給した。

第一回贈呈式及び交流会を秋田県中央男女共同参画センターで開催。第二回贈呈式は県央地区企画の外国人とわぴえ会員の交流と親睦の集いの場で支給。奨学生の皆さんは学習意欲は勿論のこと、わぴえの活動へ積極的に参加され日本との友好関係に努めてくださることを願っている。

今年度、最後の事業として「結成25周年を迎えてお祝いの集い」を1月30日　秋田市・秋田ビューホテルにて開催。参加者110名テーマ学習での講演会は日本キリスト教海外医療協会（JOCS）の大江浩氏が「みんなで生きる～私からはじまる国際協力～」と題して医療活動への支援のため、使用済み切手の収集運動など、国際協力の在り方について講演。交流会では「感謝と願いを新たな門出に」のテーマのもと四半世紀のあゆみをふり返りながら、今後の発展を誓い会った。

パートナー的存在であった在住外国人の方々とは、今ではすっかり隣人となり、お互いに多くのことを学び会える関係になっていることが25年のあゆみであると、ふと気づかされた。

慶州ナザレ園訪問、在韓日本人妻の会とわぴえ会員との交流

県央地区交流の集い、第二回わぴえ奨学プラン贈呈式

第一回「わぴえ奨学プラン」贈呈式

わぴえ25周年を迎えてお祝いの集い

寺子屋キャラバン

― アフガン人が語る寺子屋のいま ―

秋田ユネスコ協会

国連は1990年を「国際識字年」と定め、非識字者をなくそうという活動目標を立てた。その「すべての人に教育を」のスローガンの下、1989年日本ユネスコ協会連盟ではいち早く「ユネスコ·世界寺子屋運動」として支援活動に取り組み、識字率の低い国々に教育の場（寺子屋）を作る運動を行ってきた。

2009年でこの運動は20周年を迎えたが、この事業を通じて43カ国1地域で、約124万人の人びとに教育や職業訓練の機会を提供し、人びとの生活向上プログラムを考え、支援してきた。しかしながら世界の非識字者数（15歳以上の成人）は約7億7,600万（世界の大人の6人に1人）、正規の学校に通えない児童数（6歳から11歳の子ども）は約7,500万人（2009年6月現在）を数える。

秋田ユネスコ協会がこの寺子屋運動に取り組んだのが1995年。バザーや募金活動、書き損じはがき回収キャンペーンなどを行い、アフガニスタンを支援して5年になる。

＊

2009年11月10日、ジョイナスを会場に会員や一般の方、高校生など50名ほどが参加し、日本ユネスコ協会連盟カブール事務所スタッフと、元寺子屋学習者（現在イスタリフ村寺子屋運営委員）からアフガンの現状、寺子屋の状況など、ビデオを見ながらお話を伺った。

アフガニスタンは長い混乱により社会全般にわたって発展が遅れ、教育制度も崩壊した。日本ユネスコ協会連盟がアフガンプロジェクトを開始したのが2002年。翌2003年にイスタリフ村に寺子屋第1号が完成する。アフガンのデータにちょっと触れると、● 土地は日本の約1.7倍 ● 平均寿命は44.6歳（周辺国と比べて20年も短い。）● 識字率（15歳以上）は全体28.1%（世界で4番目に低い）男性43.1%　女性12.6%（農村部の非識字率は90%）である。

元寺子屋学習者（57歳）は、寺子屋への思いを次のように語った。「私は人生で初めて識字クラスでダリ語や算数を学び、自分の名前が書けるようになった。いくつになろうと学ぶのに遅いということはない。今は仕事も任され、子どもたちを学校に通わせ、大きな幸せと誇りを感じている。私には夢がある。子どもたちが教育を終え、社会に貢献できる仕事に就くこと。そしていつかイスタリフ村に非識字者がいなくなる日が来ることを望んでいる。」と。

世界的教育学者パウオ・フレイレ博士は、「読み書きが出来ないのは能力がないのではなく、学ぶ機会を奪われているからなのだ。」と語っているが、今回現地の様子をじかに聞き、もっとたくさんの人たちに教育の場を提供し、共に学んで生きていけるようになってほしいと、活動にも弾みがついた。

年に4回、賑やかに交流の催し

秋田地区日中友好協会・県日中女性委員会

秋田地区日中友好協会、秋田県日中友好協会女性委員会は年間4つの行事を秋田地区中国人留学生学友会と連携して実施し、留学生との交流を深めている。

4つの行事とは、1つ目が留学生が大学などに入学して最初に参加する「お花見」で、今年度は秋田市の一つ森公園で昨年4月18日に行った。バーベキュー、豚汁、折詰で、ビール、ジュース、日本酒などを飲みながら交流し、日本の伝統文化ともいえるサクラを楽しんだ。

2番目は夏の「海辺の集い」。大陸育ちで海を知らない留学生が多いことから企画したものだが、これは７月25日、潟上市の出戸浜海水浴場で開催した。留学生は子供たちも連れて参加し、地引網、スイカ割りに興じた後、海の家で焼肉パーテイー。このころになると日本語を知らずに来た人たちも会話できるようになって、日本側の参加者と片言の会話が交わされるようになって、盛り上がった。

3つ目は中国の建国を祝う「国慶節をいっしょに祝う会」で、10月3日、秋田市内のホテルで開いた。この会では留学生たちの学友会の役員改選もあることから、参加者が多い。中華料理を食べながら、女性委員会のメンバーが中心になって集めたプレゼントをビンゴゲームで賞品とするといった企画もあり大賑わい。カラオケ大会もマイクの奪い合いとなった。

そして4つ目が、中国で行われている新年を祝う「春節」（暦の元旦にあわせて実施）をともにたのしもうという催し。年が明けた1月25日、同様に秋田市内のホテルで行った。これには県日中友好協会の理事が多数特別参加して留学生との交流を行った。

参加者は、ほとんど日本側40～50人、留学生は家族をふくめて50人前後。留学生たちからは「開催を楽しみにしている行事だ」と好評を得ている。

4月に行われたお花見　みんなで記念撮影　一ツ森公園で

国慶節を祝う会　留学生たちはテーブルを回って「乾杯」を繰り返していた

7月の海辺の集い　地引き網はまずまずの豊漁で留学生も大喜び

春節を祝う会では女性委員会のメンバーがお揃いで登壇　日本の歌をコーラスした

研修団受け入れ、留学生を通訳に 帰国した留学生らが友好協会を設立

秋田モンゴル友好協会

留学生との交流、支援が協会設立の大きな目的であるため、今年も積極的にそうした行事を企画実施したが、それとは別に、昨年6月、モンゴル国から、大学の教職員を中心とした「日本の産業を見聞、研修するツアー」を受け入れて、県内に留学中の学生たちに通訳となってもらい、友好協会会員以外の県民との接触の交流を行ったのが、大きな出来事だった。

研修団員は11人で、滞在は7日間。秋田市に1泊、湯沢市の民家に6泊したが、これに留学生数人が通訳として、交代で同行した。これで、留学生たちは湯沢の人たちとすっかり親交が深まった。湯沢市には新たにモンゴルとの交流親善を主目的とした団体が組織されるなど、大きな成果を上げた。

また、一方ではかつて秋田県内に留学したり、研修にきたことのあるモンゴルの人たちが、首都ウランバートルで、「モンゴル秋田友好協会」を設立し、両国の親善を強固なものにしようと活躍してくれるといううれしいニュースもあった。

留学生たちによれば、モンゴルと秋田は産業や風土的条件の共通点が多く、これから県単位で交流を深めるように、「私たちが架け橋になりたい」と語るなど、交流は充実してきている。

このほか、留学生は国際フェステバルなど協会の行事には背曲的に参加しているほか、協会会員もホームステイーとして留学生を自宅に受け入れたり、会員の有志で留学生とのミニパーテイーを開催するなどしている

6月にモンゴルから研修団が視察、留学生は通訳として活躍した―秋田空港で

留学生らと焼肉パーティーで交流

留学生と共に県内を見学のピクニック―田沢湖のわらび座前で

留学生を県内視察に案内する協会員―阿仁で

私たち地球人をめざして

国際交流オープンクラス

国際交流オープンクラスは、1990年9月に発足した草の根のボランティア活動グループです。

グループのモットーは「オープン：ひらかれていること」「アット・ホーム」。楽しく異文化交流・国際交流事業を行っています。

「覚えた日本語をもっと使いたい」「話せる場が欲しい」「母国のことを伝えたい・知って欲しい」「きりたんぽを作ってみたい」などの、秋田在住の外国の人たちの思いに応えることからスタートしました。

《私の国・あなたの国シリーズ》ではお互いの国々の文化・生活などについてのトーク＆トークを行っています。

《食文化シリーズ》では、家庭料理・お国自慢料理などをみんなで作りながら、各国の食の共有をしています。

秋田工業高等専門学校の留学生を中心に、国を越えた「地球人」をめざし、出会いに感謝しながら活動を続けていきたいと思います。

（代表　伊藤晴美）

日本文化・琴にチャレンジ

アトリオンの演奏会に出演

カンボジアの家庭料理教室

カメルーンの国紹介

留学生交流事業の紹介

秋田県立大学

【由利本荘青年会議所との交流会】

この交流会は、異文化を学び理解する気持ちを育てることを目的としたもので、由利本荘青年会議所からの呼びかけで今年度はじめて実施された企画です。昨年の5月21日に本学の本荘キャンパスで行われ、留学生12人が参加しました。

初めはお互いに戸惑いぎみでしたが、似顔絵を描き合うというユニークなアイスブレイクで和やかな雰囲気になり、その後は留学生の母国（中国・韓国・ウルグアイ）のことや由利本荘地域の自慢などについて、初対面とは思えないほど活発に語り合いました。

地域の若手経済人と異文化を学び合う、という貴重なふれあいができたこの交流会。本学の留学生は、活動的でユーモアがある青年会議所の皆さんからたくさんの刺激を受けました。

国際教養大学

国際教養大学では、本学学生を地域のイベントや県内の小・中学校へ派遣し、地域との交流を積極的に行っています。昨年2月には大仙市と交流協定を結び、これまで以上に活発な交流活動が繰り広げられました。また、大学の立地する雄和地域との交流も進められ、田植え・稲刈り、干し柿作り、ヤマハゲ体験など、生活に密着した行事へも参加しました。留学生の大半が半年から1年間の交換留学生であるため、限られた時間をいかに有効に使い、秋田での留学生活を充実したものにするのか、学生と事務局とが一丸となって活動しています。

【大仙市交流プログラム】

交流協定に基づき、大仙市内の幼稚園・保育園、小・中学校へ留学生を派遣して異文化交流を進めました。年間で60回ほどの交流活動がありました。

【雄和地区との交流】

田植え・稲刈り、干し柿づくりなどの農業体験のほか、運動会・新波神社の例祭など地元行事へも参加し、地域住民との交流を深めました。

【サンタクロース】

県内の幼稚園・保育園、小学校などを、サンタクロースに扮した留学生が訪問し、子どもたちに夢とプレゼントを届けました。

秋　田　大　学

【文化体験事業（わらび座）】

6月27日、わらび座ミュージカルを鑑賞しました。この事業は、国連大学私費留学生育英資金貸与事業（UNU-FAP）による事務経費を活用した事業の一環として、留学生が日本のお芝居や演劇を通じ日本文化の理解を深める機会を提供することを目的に、昨年度から新たに実施したものです。

今年度は、UNU-FAP受給生17名を含む38名が参加しました。参加者は、田沢湖を周回し辰子像などを見学した後、午後から「わらび劇場」へ移動し、劇団わらび座によるミュージカル「坊ちゃん」を鑑賞しました。留学生たちは、初めて生で見るミュージカルのテンポの良い歌と踊りに引き込まれ、盛んに拍手を送っていました。

【留学生体験事業「日本のもちつき」】

12月28日、大学会館１階食堂を会場に年末恒例の「もちつき」を実施しました。当日は、本学留学生・教職員のほか、日頃、留学生がお世話になっている留学生会館や国際交流会館のある地域の方々など約100名が参加しました。

留学生は地域住民の手を借りながら、実際に餅をついたり、お供作りの体験などをし、お正月を前にした日本の伝統行事に直に触れる機会を楽しんでいました。

【秋田の伝統行事「なまはげ柴灯まつり」体験旅行】

2月13日、男鹿半島に伝わる伝統行事「なまはげ柴灯まつり」を見学しました。今回は、留学生や外国人研究員のほか、日頃、留学生と交流のある教職員など総勢28名が参加しました。

当日は「なまはげ伝承館」で家人となまはげによる寸劇を鑑賞後、午後6時から祭りの会場となる真山神社へと向かいました。真山神社では、小雪が舞う中で繰り広げられる「なまはげ太鼓」や「なまはげ踊り」、勇壮な「なまはげ下山」の様子などを堪能したほか、祭り後半には、なまはげと一緒に記念撮影をするなど、留学生は秋田の伝統行事を存分に楽しんだ様子でした。

【留学生スキー合宿研修会】

2月20日～21日、田沢湖スキー場を会場に留学生スキー合宿研修会を実施しました。今年度は10の国と地域からの留学生ら24名が参加しました。

初日はゲレンデ上で悪戦苦闘する留学生も、二日目にはインストラクターの指導の成果もあって、元気に斜面を滑り降りられるまでになり、スキーの楽しさを徐々に実感できたようでした。

また、初日の夜は田沢湖高原雪まつりの開催中であったため、火振かまくらや紙風船上げなど地方の冬まつりを見学できたほか、花火やジャンプのアトラクションなどもあり、留学生は日中の疲れも忘れ、雪国ならではの多彩な催しに歓声を上げていました。

平成21年度 国際交流事業の実施状況

地方自治体・国際交流団体

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数（ ）書きは、参加留学生数	事業の内容
1	海外技術研修員等受入事業	秋田県	21年9月24日～2月28日	1 (1)	友好交流国等から研修員を受入れ、県内大学、企業等で研修を行う。
2	ホームステイ受入支援事業 ～あきたのファミリー～	秋田県	通年	【春期】 76（48） 【秋期】 11（65）	留学生が日本の一般家庭に短期間滞在、交流する機会を提供し、日本の習慣・文化・地域の現状について理解を深めるとともに、交流を通じて秋田での生活をより有意義なものにする。 ※県から（財）秋田県国際交流協会への委託事業。
3	環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業（秋田県環日本海交流推進協議会友好交流部会主催）	秋田県	22年2月27日	23 (18)	将来の環日本海交流を担う県内留学生を対象に、本県の文化・産業を紹介する施設や観光地等を案内し、同地域の若い世代の秋田県に対する理解向上を促進する。
4	海外技術研修員 受入事業	秋田県国際交流協会	21年9月～ 22年2月	1 (0)	専門技術の習得 県民との交流
5	A・la・カルチャー	秋田県国際交流協会	21年12月6日	—	サポーター周知を兼ねた各国の文化紹介とクリスマス行事を楽しむ交流会
6	あきたのファミリー	秋田県国際交流協会	通年	78家族 134 (134)	秋田で学ぶ留学生に地域の一般家庭と交流する機会を与え、日本や秋田の習慣、文化について理解を深めてもらう ※秋田県からの受託事業
7	あきた国際フェスティバル2009	秋田県国際交流協会	21年10月17日	3,000	県内在住外国人による母国紹介、国際活動民間団体による活動紹介やステージパフォーマンスなど
8	日露青年交流事業全ロシア子どもセンター主催国際交流プログラム高校生派遣事業	秋田市	21年7月26日～ 8月13日	4	国の日露青年交流事業として行われる同プログラムに参加し、市内高校生をウラジオストク市近郊の同センター「オケアン」に派遣する。
9	国際交流関係会議出席	秋田市	21年8月18日～ 21日	5	第22回日ロ沿岸市長会議（函館市）に参加するとともに同会議に出席するウラジオストク市代表団と個別懇談を行う。
10	パッサウ市姉妹都市提携25周年記念友好交流事業	秋田市	21年10月9日～ 17日	96	パッサウ市との姉妹都市提携25周年にあたり、本市代表団、市民交流団を編成し、同市において記念式典、市民交流行事等を開催する。
11	蘭州市文化交流事業	秋田市	21年10月26日～ 11月18日	1	蘭州市から講師を招聘し、牛肉麺料理講習会等を開催する。
12	蘭州市医療研修員受入事業	秋田市	21年10月15日～ 12月15日	2	蘭州市から医療研修員を受け入れ、市立秋田総合病院で研修を行う。
13	対岸経済交流事業	秋田市	①21年7月 ②21年10月	①3 ②20	①ウラジオストク、ハバロフスク市場調査 ②ウラジオストク輸出サポート促進事業、ハバロフスク商談会
14	医療友好交流事業	秋田市	21年11月1日～ 5日	6	蘭州市から医療関係者を受け入れ、医療状況視察、医療技術交流を行う。
15	韓国修学旅行	秋田市	21年11月9日～ 12日	生徒30 引率3	美術工芸短大附属高等学院が友好校の仁川デザイン高等学校を訪問。
16	英語指導助手活用事業	秋田市	通年	19	英語を母国語とする外国青年を招致し、英語教育におけるコミュニケーション能力の向上のため、市内中学校及び高等学校に英語指導助手（ALT）として派遣。
17	大仙市韓国唐津郡青少年交流事業	大仙市	21年8月20日 ～24日	11	大仙市と友好交流関係にある韓国唐津郡からホソ中学校生徒8名と担当と教員等3名が訪問。大曲の花火鑑賞･ホームステイ･大曲中学校との交流･日本文化体験を行う。
18	国際教養大学との異文化交流事業	大仙市	《第Ⅰ期》 21年5月～7月 《第Ⅱ期》 21年9月～12月 《第Ⅲ期》 22年1月～3月	第Ⅰ期 60 (60) 第Ⅱ期 158 (158) 第Ⅲ期 40 (40)	本年2月20日に大仙市と国際教養大学が結んだ「国際交流に関する連携プログラム協定」に基づき、市内の小中学生や幼稚園･保育園の園児と、国際教養大学留学生の交流事業を行う。学校行事や授業に留学生が参加し、異文化理解や外国語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。国際教養大学への訪問も実施している。 1回の留学生訪問人数は2名～5名程度 第Ⅰ期：16回 第Ⅱ期：40回 第Ⅲ期：10回（見込み）
19	韓国青少年ツアー受入事業（冬）	大仙市	22年1月～2月	40	韓国青少年北ソウル連盟から派遣された韓国青少年が大仙市を訪問。学校交流やホームステイ、日本文化体験を実施する。20名×2団体受入の予定
20	大仙市韓国唐津郡青少年交流事業	大仙市	22年2月8日～11日	27	大仙市と友好交流関係にある韓国唐津郡から郡守（市長）や機池市綱引き保存会が、刈和野の大綱引きを訪問する。
21	大仙市中学校生徒海外派遣事業	大仙市	22年1月3日～11日	21	オーストラリアケアンズへ中学生20名と引率1名を派遣し、ケアンズの青少年との交流会やファームステイを実施。事前にオーストラリア文化の理解や英会話、報告会に向けた事前･事後の研修も実施。
22	外国青年招致事業	大仙市	年間	9	外国語指導助手7名と国際交流員2名（豪州1名･韓国1名）を招致し、英語教育及び国際理解教育を推進。
23	大仙仙北広域圏日本語講座運営委員会	大仙市	通年 火曜：大曲夜 木曜：大曲昼 土曜：角館昼	火/29 木/31 土/43 （月平均）	在住外国人を対象とした日本語講座を実施。
24	地域外国籍住民等サポート事業	大仙市	通年	通年32件	日本語教師を中心に、在住外国人を対象に生活習慣等の相談業務を実施。
25	外国青年招致事業	仙北市	通年	受入人数3	外国からALTを招致し、小中学校の英語教育の充実と国際理解の推進を図る。
26	大曲仙北地域外国籍県民等サポート事業負担金	仙北市	通年	相談者数 22（角館教室での相談者）	外国籍住民が生活習慣の異なる日本での生活上の問題に対峙した際の解決手段への相談、アドバイス等を相談員が行う事業への負担金。
27	大曲仙北広域市町村圏日本語講座負担金	仙北市	通年	受講者数 27（角館教室での受講者）	外国籍住民の日本語学習を支援するため、日本語教室を開催する事業の負担金。
28	中国・無錫市国際友好都市交流会	由利本荘市	21年9月26日～ 10月1日	3	中華人民共和国建国60周年記念事業として、江蘇省・無錫市からの招待により、友好都市同士の交流会を開催
29	ハンガリー国交樹立140周年記念事業	由利本荘市	22年3月	50	ハンガリー駐日大使などを本市へ招待し、レセプション及び祝賀パーティーを開催

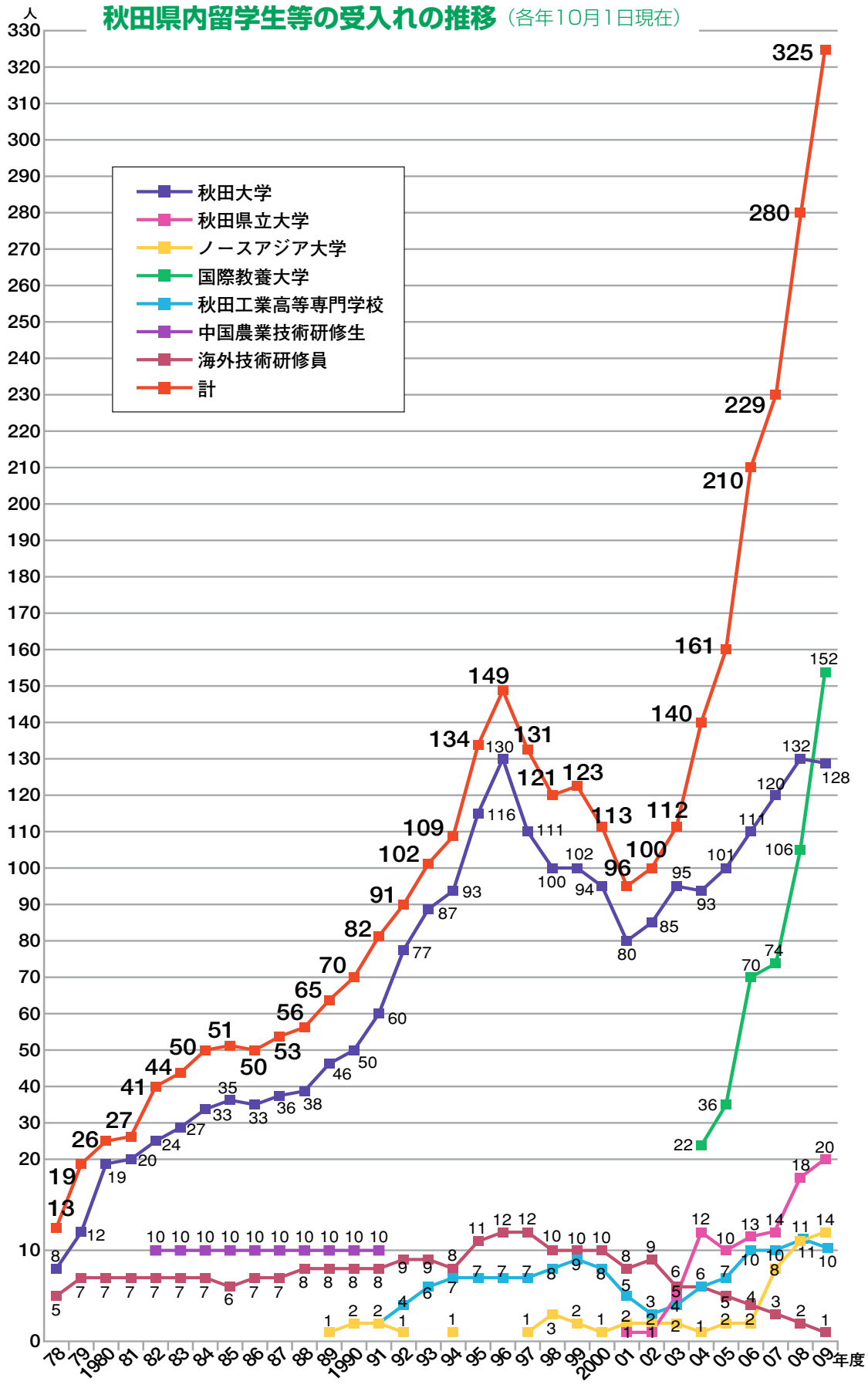
No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数（ ）書きは、参加留学生数	事業の内容
30	日本語教室	横手市	週1回（年44回）	約20	在住外国人が日常生活に必要な日本語の会話並びに読み書きを習得することを目的とする。また、生活等の相談に応じ、日本での生活順応を支援する。
31	ホームステイ受入		21年10月10日～12日 22年2月13日～15日	各10	明海大学（千葉県浦安市）に通う留学生を市内の家庭にホストファミリーとして受け入れてもらい、相互の国際理解を図る。また、留学生には、秋に地域農産物の収穫、冬に地域行事を体験してもらい、地域のPRと活性化を図る。
32	横手体験ツアー		・21年5月29日 ・21年6月14日 ・21年10月3日 ・22年2月16日	・11（6） ・2（10） ・2（10） ・2（10） ・79(52)	国際教養大学に通う留学生に「横手」を体験してもらい感想や意見をいただくとともに、地域住民及び在住外国人との交流を図る。
33	国際理解講座	秋田ユネスコ協会	21年4月18日	40	テーマ　若者たちが求めるもの ～スコットランドと日本では～ 講　師　ソーフィン テート氏 スコットランドの教育制度について日本と比較しながらお話を聞く。
34	ユネスコ・交流亭 ～南米の世界遺産を巡って～		21年6月14日	45 (1)	秋ユ協菅原会長夫妻による南米の世界遺産探訪報告。イグアスの滝、ナスカの地上絵、クスコ、マチュピチュ、リマの歴史地区など魅力あふれる話であった
35	アフガンキャラバン ～アフガニスタンの寺子屋はいま～		21年11月10日	50	治安が悪化し、国の復興がなかなか進まないアフガニスタン。秋ユ協ではアフガニスタンの寺子屋プロジェクト（識字教育）を支援していますが、そんな不安定な中で寺子屋はどんな状況にあるのでしょうか。アフガニスタンの2名の寺子屋関係者を招いての報告会を開きます
36	日本語によるスピーチ・コンテスト＆ ボディランゲージで楽しもう！		21年11月15日	120	秋田に住む外国人に、日本語で意見を発表する機会を提供することで日本語学習意欲を高め、日本の文化に親しんでもらうことを目的としています。そしてスピーチを通して多くの人びとに文化の多様性を実感してもらい、一層の相互理解、国際交流が図られることを期待しています。 メインテーマ 未来に伝えたいこと 9カ国　12名のスピーカーがチャレンジ（審査員には外国人も）
37	ニューイヤーフェスタ ～世界のダンスで平和の文化を～		22年1月17日	160	地域の中に「平和の文化」を築く手がかりとして各国の文化、それも若い人たちに親しみやすく、馴染みやすい音楽・ダンスを通して文化の多様性を互いに学び合い、理解しあうことで、「平和の文化」を築くきっかけを作りたい。
38	書き損じはがき回収キャンペーン		22年1月30日～31日	244	ユネスコ・世界寺子屋運動（識字率の低い途上国への識字教育支援）の一つとして書き損じはがきを集め現金化し、（社）日本ユネス協会連盟を通してアフガニスタンの寺子屋プロジェクトを支援。
39	国際ソロプチミスト秋田　留学生援助	国際ソロプチミスト秋田	21年4月～	(1)	国際ソロプチミスト秋田は継続事業として1989年に奨学基金を設立。留学奨学金を秋田大学留学生へ月額30,000円1年間援助している。今までにベトナム難民医学生・台湾・パプアニューギニア・中国・イラン留学生を援助し今年度はモンゴル出身のバトムンク・ドウバウウー氏を援助している。
40	秋田国際フェスティバル2009		21年10月17日	会員12	秋田国際フェスティバル2009に参加し与えられたブースにて交流をする。
41	国際ソロプチミスト秋田　留学生援助				次年度も留学生奨学金援助を継続する。
42	秋田の行事 竿燈まつりを体験しよう	国際交流オープンクラス	21年8月6日	7 (5)	小学校の竿燈まつり ふれあいタイムに参加
43	カンボジア高校生との交流事業協力		21年9月21日	50（5）	秋田を訪れたカンボジア高校生20名と交流をはかる。
44	秋田県国際デー フェスティバルに参加しよう		21年10月17日	9 (2)	ブースにて活動紹介をする。世界のお金クイズを実施し、交流する。
45	ベトナム国立舞踊団秋田公演交流事業協力		21年12月13日	750 (10)	田沢湖芸術村わらび座で行われたベトナム・わらび座のコラボの公演を鑑賞し、交流をはかる。
46	私の国、あなたの国シリーズ カメルーン編		21年12月20日	15 (4)	秋田高専のカメルーン留学生を講師に招き、政治・経済・文化・習慣など国際理解をはかる。
47	文化シリーズ 琴を弾こう		22年1月24日	10 (2)	日本の古典音楽「琴」にチャレンジ。アトリオン演奏会にマレーシアの留学生2人が出演。多数の留学生が鑑賞する。
48	ベトナム高校生との交流事業協力		22年3月9日	55（8）	秋田を訪れたベトナム高校生20名と交流をはかる。
49	秋田のファミリーに登録メンバー7家族 ホームスティ受入	言語交流研究所ヒッポファミリークラブ	各家庭随時複数回	(13)	アメリカ、韓国、ノルウェイ、モンゴル、台湾、中国からの留学生13人
50	国際フェスティバル　ブース参加		21年10月17日	17	県国際交流協会主催。クイズや活動紹介。
51	留学生歓送迎会		21年7月12日	23（6）	韓国・モンゴル・台湾からの留学生6人と一緒にゲーム、会食、懇談など。
52	留学生交流会（きりたんぽ鍋作り＆懇親会）		21年10月18日	26（7）	アメリカ・韓国・モンゴルからの留学生７人と一緒にきりたんぽ・だまこもち作り、会食、ゲーム、懇談など。
53	2009年度総会・研修会	秋田県国際交流を進める女性の会（わぴえ）	21年5月9日	55 (秋大8)	テーマ学習　Think globally, act locally. ～ふりかえりと新たなであいを！～ 研修会、「元気をもらおう・みんな楽しく！」秋大南米民俗音楽サークルLa-mia による演奏会
54	「わぴえ奨学プラン」第一回贈呈式・交流会		21年7月16日	13 (4)	県内の私費女子留学生に対し奨学金を支給 （わぴえ奨学基準による）
55	2009年大曲夏祭り		21年8月1日	20	在住外国人による浴衣コンテスト
56	交流事業 わぴえ奨学生との交流		21年9月22日	20 (4)	奨学生を囲んで異文化を学ぶ。韓国and日本の民話他
57	わぴえ　韓国スタディツアー		21年10月12日～15日	13	韓国慶州ナザレ園訪問。在韓日本人妻についての理解・交流と支援
58	あきた国際フェステバル2009		21年10月17日	20	県国際交流協会主催で40団体参加。県内在住外国人と一般市民との交流。ブース出展
59	わぴえ秋田西地区研修会		21年11月25日	15（1）	韓国国際交流員イ・ユジン氏による韓国の家庭生活についての講和と家庭料理の実習
60	ハーモニープラザまつり～ つながろう! 語ろう！　人と人		21年11月26、27、28日	20	他団体との連携を深めながら楽しい交流の場をつくる。 わぴえ紹介。チャリティ活動他
61	わぴえ県央地区国際交流のつどい 第2回奨学金贈呈式		21年12月19日	38（15）	外国人とわぴえ会員の交流と親睦 わたしの国のクリスマス・お正月等の過ごし方また、思い出（各国の紹介他）奨学金贈呈式
62	わぴえ25周年を迎えて お祝いの集い		22年1月30日	110（3） 奨学生	Ⅰ部　記念講演「みんなで生きる」～私からはじまる国際協力～ 講師　大江浩氏　日本キリスト教海外医療協力会（JOCS） Ⅱ部　「感謝と願いを新たな門出に」

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数（ ）書きは、参加留学生数	事業の内容
63	わぴえ韓国スタディツアー報告会「愛には国境がない」	秋田県国際交流を進める女性の会（わぴえ）	21年1月30日	10（3）奨学生	ナザレ園訪問記録DVD上映。在韓日本人妻についての理解と交流また支援のあり方を考える。
64	生活相互理解講座 ピエダさんのコロンビア料理 part Ⅱ		22年2月4日	20	コロンビア料理を通して異文化を知る。秋田東地区
65	第17回ひなまつり交流会		22年2月28日	57（15）	由利本荘市の伝統行事の「ひなまつり」を体験 イベントを通して在住外国人との交流

大学・高専

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数（ ）書きは、参加留学生数	事業の内容
1	秋田の農家民泊	秋田県立大学	21年10月3日～4日 21年11月7日	4（2）	農業体験、農家との交流会など
2	日本青年会議所 交流会		21年5月21日	18（14）	由利本荘市青年会議所国際交流共同委員会主催の意見交換会
3	秋田市雄和新波地区での農作業等体験活動	国際教養大学	21年5月9日 5月24日 6月7日 6月28日 10月4日 10月24日	累計 91（81）	新波地区の農家の方々が指導者となり、農作業等を体験。 5月9日の代掻き、5月24日の田植え、6月7日のさなぶり運動会、6月28日の新波神社祭典、10月4日の稲刈り、10月24日の柿もぎ・干し柿作りなど、様々なイベントを体験。
4	八峰町との国際交流プログラム		21年5月22・23日、6月19・20日、7月10・11日、9月12日、10月17日、11月20・21日、12月11・12日 22年1月16日、2月20日、3月13日	累計 64（59）	平成19年度から実施している八峰町との国際交流プログラム。協定に基づき、八峰町内の小中学生及び保育園児と本学学生が交流することにより、双方の異文化を体験し、国際理解を深める。今年度は、金曜日に中学校を訪問し、土曜日に小学校あるいは保育園を訪問している。
5	大仙市との国際交流プログラム		21年5月22・26・29日、6月6・12・15・19日、7月3・4・8・10・13・17日、9月25・30日、10月1・8・16・20・21・22・26日、11月4・5・10・12・13・14・18・20・25・27日、12月4・9・11・17・18・24日、1月14・22・26日、2月4・5・16・17・19日、3月4日	累計 101（101）	平成21年度に締結した国際交流に関する協定書に基づく交流プログラム。5月から開始し、大仙市内の小中学校および保育園へ留学生を派遣したり、また本学へ大仙市内の児童・生徒を受け入れ交流を行っている。
6	角館・田沢湖バスツアー		21年5月16日	85（71）	春の角館を訪れて観桜、伝承館や青柳家を見学、田沢湖畔を散策。
7	薪能観劇		21年6月6日	87（45）	大仙市協和の唐松神社で行われた薪能を観劇。
8	男鹿バスツアー		21年6月27日	39（39）	寒風山、なまはげ館、男鹿水族館GAOを見学。
9	松竹大歌舞伎観劇		21年7月6日	93（69）	松竹大歌舞伎の秋田講演を観劇。
10	角館バスツアー		21年7月18日	32（28）	サマープログラム留学生のためのバスツアー。日本の文化に触れるため、青柳家などを見学。
11	鳥海山・蚶満寺バスツアー		21年8月29日	135（101）	蚶満寺の見学、十六羅漢岩や鳥海山の散策などを通して日本の文化や自然に触れる。
12	小安峡・横手ふるさと村バスツアー		21年8月31日	162（127）	小安峡を散策し日本の四季を楽しんだほか、横手ふるさと村を見学。
13	bjリーグ観戦		21年9月23日	34（23）	bjリーグ2009-2010プレシーズンゲームを観戦。
14	鳥海山バスツアー		21年10月17日	110（94）	鳥海山を散策し、帰りに蚶満寺を見学。
15	なまはげ柴灯まつりバストリップ		22年2月13日	66（19）	男鹿のなまはげ柴灯まつりに参加し、秋田の冬まつりを体験。
16	高杉祭	ノースアジア大学	21年7月4日～5日	約500（9）	学園祭（地域の市民、学生との交流を図った。）
17	韓国語講座		21年9月28日	5（2）	本学で主催している韓国語講座（留学生が指導補助として参加し、参加者と交流した。）
18	学校の枠を越えた留学生研修	秋田工業高等専門学校	21年1月8日～10日	約60（45）	学校見学、最上川舟下り体験、山居倉庫見学、加茂水族館見学、交歓会
19	文化体験事業	秋田大学	21年6月28日	38（32）	わらび座ミュージカル「坊ちゃん」を観劇。
20	平成21年度留学生地域交流事業「秋田の農家民泊―体験から持続的交流へ―」		21年10月3日～4日（農業体験ツアー） 21年11月7日（収穫感謝祭ツアー）	累計 90（40）	県内留学生が秋田随一の地場産業である農業と農家の暮らしを体験的に理解し、地域住民・留学生間での意見交換を通じて地域住民らと友好を深め持続的交流のきっかけを得ることを目的として実施。
21	北東北国立3大学外国人留学生合同合宿研修会		21年11月21日～23日	65（60）	弘前大学及び岩手大学の留学生及び日本人学生との合同合宿研修会において、グループ毎のビデオ制作・発表を行い、多文化交流を体験する。
22	留学生体験事業「もちつき」		21年12月28日	100	日本の伝統文化「もちつき」を体験。
23	秋田の伝統行事体験旅行		22年2月13日	28	秋田の冬の伝統行事である男鹿の「なまはげ柴灯まつり」を体験。
24	外国人留学生スキー合宿		22年2月21日～22日	24	田沢湖スキー場を会場に、1泊2日のスキー合宿を実施。

留学生関係資料


秋田県内留学生等の受入れの推移（各年10月1日現在）
人
年度
秋田大学
秋田県立大学
ノースアジア大学
国際教養大学
秋田工業高等専門学校
中国農業技術研修生
海外技術研修員
計

住居形態別留学生数（平成21年10月1日現在）

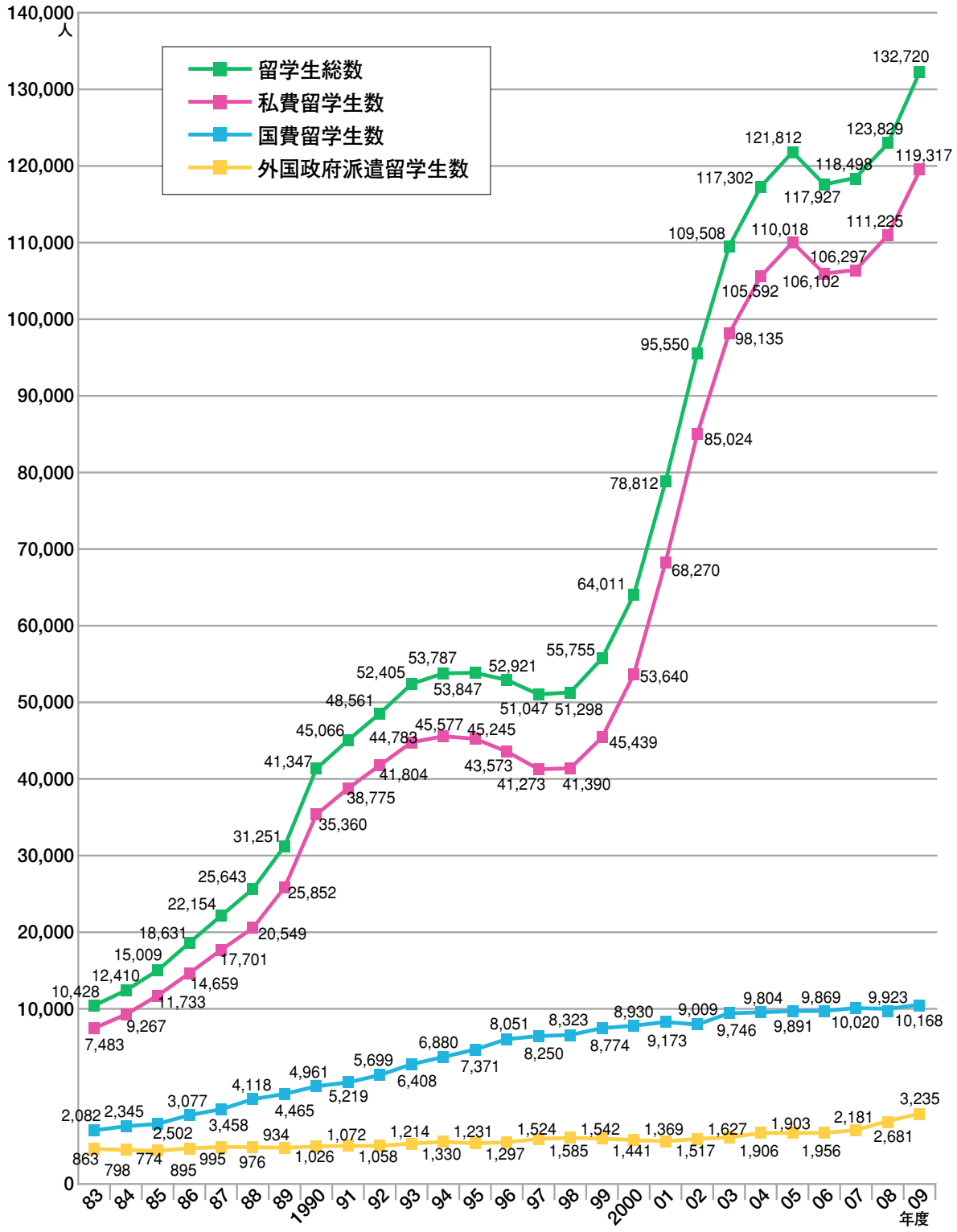
住居別＼学校等別	秋田大学	秋田県立大学	ノースアジア大学	国際教養大学	秋田工業高等専門学校	秋田県	合計
留学生用宿舎	38（17）			75（34）			113（51）
大学の職員宿舎							
大学等の学生寮			10（ 3）	70（45）	10（ 1）		90（49）
秋田県職員宿舎							
公営住宅	4（ 2）						4（ 2）
民間下宿・アパート	84（30）	18（ 5）	2（ 2）	4（ 2）		1（ 1）	109（40）
民間企業の社員寮							
ホームステイ							
その他	2（ 0）	2（ 1）	2（ 0）	3（ 2）			9（ 3）
合計	128（49）	20（ 6）	14（ 5）	152（83）	10（ 1）	1（ 1）	325（145）

注：（ ）内は内数で女性を示す。

秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況（平成21年10月1日現在）

地域・国名＼機関等名		秋田大学	秋田県立大学	ノースアジア大学	国際教養大学	秋田工業高等専門学校	秋田県（海外技術研修員）	計	地域別割合
アジア	中国	48	17	6	7		1	79	65.8%
	韓国	16	1	6	15			38	
	マレーシア	27			1	5		33	
	モンゴル	4			8			12	
	台湾	2			11			13	
	香港				1			1	
	マカオ				2			2	
	シンガポール				2			2	
	ベトナム	12						12	
	カンボジア					1		1	
	インドネシア	2			1	1		4	
	フィリピン	1			2			3	
	ネパール		1					1	
	パキスタン	1						1	
	バングラデシュ	1						1	
	ラオス					1		1	
	タイ	5			4			9	
	ミャンマー	1						1	
	計	120	19	12	54	8	1	214	
アフリカ	ガーナ	1						1	1.9%
	南アフリカ	1						1	
	カメルーン					1		1	
	ボツワナ	2						2	
	ウガンダ					1		1	
	計	4	0	0	0	2	0	6	
オセアニア	オーストラリア				2			2	1.9%
	パプアニューギニア	1						1	
	ニュージランド				1			1	
	トンガ			2				2	
	計	1	0	2	3	0	0	6	
北米	アメリカ	1			55			56	20.3%
	カナダ				9			9	
	メキシコ				1			1	
	計	1	0	0	65	0	0	66	
中南米	ウルグアイ		1					1	0.6%
	ブラジル	1						1	
	計	1	1	0	0	0	0	2	
ヨーロッパ	イギリス				9			9	9.5%
	フランス				1			1	
	ノルウェー				4			4	
	ロシア				1			1	
	ドイツ				7			7	
	ベラルーシ	1						1	
	スイス				2			2	
	スウェーデン				2			2	
	ハンガリー				1			1	
	チェコ				2			2	
	デンマーク				1			1	
	計	1	0	0	30	0	0	31	
合計		128	20	14	152	10	1	325	100%

日本全体の留学生数の推移（各年5月1日現在）



出身国（地域）別留学生数（平成21年5月1日現在）

中国・韓国・台湾からの留学生を合わせると全留学生に占める割合は78.4（前年度78.1）％となっている。

国（地域）名	留学生数		構成比		国（地域）名	留学生数		構成比	
中国	79,082人	(72,766)	59.6%	(58.8)	ドイツ	450人	(479)	0.3%	(0.4)
韓国	19,605人	(18,862)	14.8%	(15.2)	イギリス	427人	(400)	0.3%	(0.3)
台湾	5,332人	(5,082)	4.0%	(4.1)	カナダ	345人	(319)	0.3%	(0.3)
ベトナム	3,199人	(2,873)	2.4%	(2.3)	ブラジル	336人	(331)	0.3%	(0.3)
マレーシア	2,395人	(2,271)	1.8%	(1.8)	オーストラリア	331人	(347)	0.2%	(0.3)
タイ	2,360人	(2,203)	1.8%	(1.8)	エジプト	329人	(320)	0.2%	(0.3)
アメリカ	2,230人	(2,024)	1.7%	(1.6)	ロシア	304人	(315)	0.2%	(0.3)
インドネシア	1,996人	(1,791)	1.5%	(1.4)	カンボジア	300人	(287)	0.2%	(0.2)
バングラディシュ	1,683人	(1,686)	1.3%	(1.4)	ラオス	285人	(276)	0.2%	(0.2)
ネパール	1,628人	(1,476)	1.2%	(1.2)	サウジアラビア	253人	(184)	0.2%	(0.1)
モンゴル	1,215人	(1,145)	0.9%	(0.9)	ウズベキスタン	223人	(205)	0.2%	(0.2)
ミャンマー	1,012人	(922)	0.8%	(0.7)	イラン	218人	(216)	0.2%	(0.2)
スリランカ	934人	(1,097)	0.7%	(0.9)	スウェーデン	182人	(155)	0.1%	(0.1)
フランス	624人	(574)	0.5%	(0.5)	トルコ	167人	(171)	0.1%	(0.1)
インド	543人	(544)	0.4%	(0.4)	その他	4,204人	(3,981)	3.2%	(3.2)
フィリピン	528人	(527)	0.4%	(0.4)	計	132,720人	(123,829)	100.0%	(100.0)

（　）内は平成20年5月1日現在の数

地方別・都道府県別留学生数（平成21年5月1日現在）

（人）

地方名	留学生数	都道府県	留学生数		地方名	留学生数	都道府県	留学生数	
北海道	2,173 [1.6%] (1,900) ([1.5%])	北海道	2,173	(1,900)	近畿	23,085 [17.4%] (21,848) ([17.6%])	三重	885	(793)
							滋賀	432	(371)
							京都	5,377	(4,994)
							大阪	10,576	(10,289)
							兵庫	4,240	(4,017)
							奈良	1,304	(1,102)
							和歌山	271	(282)
東北	4,040 [3.0%] (3,481) ([2.8%])	青森	730	(523)	中国	6,472 [4.9%] (5,302) ([4.3%])	鳥取	188	(186)
		岩手	450	(396)			島根	231	(213)
		宮城	1,945	(1,814)			岡山	2,535	(1,982)
		秋田	297	(227)			広島	2,301	(2,091)
		山形	222	(212)			山口	1,217	(830)
		福島	396	(309)					
関東	65,008 [49.0%] (61,949) ([50.0%])	茨城	2,519	(2,320)	四国	1,392 [1.0%] (1,336) ([1.1%])	徳島	334	(361)
		栃木	1,126	(1,071)			香川	366	(349)
		群馬	1,464	(1,172)			愛媛	531	(475)
		埼玉	5,951	(5,444)			高知	161	(151)
		千葉	5,790	(5,566)	九州	15,674 [11.8%] (14,235) ([11.5%])	福岡	7,578	(6,613)
		東京	43,775	(42,371)			佐賀	406	(398)
		神奈川	4,383	(4,005)			長崎	1,655	(1,418)
中部	14,876 [11.2%] (13,778) ([11.1%])	新潟	1,394	(1,197)			熊本	793	(743)
		富山	599	(585)			大分	4,147	(3,965)
		石川	1,576	(1,421)			宮崎	148	(122)
		福井	340	(329)			鹿児島	413	(434)
		山梨	785	(692)			沖縄	534	(542)
		長野	618	(570)	計	132,720 [100.0%] (123,829 [100.0%])			
		岐阜	1,450	(1,373)					
		静岡	1,643	(1,480)					
		愛知	6,471	(6,131)					

（　）内は平成20年5月1日現在の数

平成21年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日　時　　平成21年12月18日（金）15：37～17：22
会　場　　秋田ビューホテル（４階「飛翔の間」）

議事に先立ち、推進会議議長の吉村　昇秋田大学長から挨拶の後、委員の自己紹介があった。

本年度の推進会議は、報告事項4件、協議事項2件について審議を行った。
報告事項として、

・平成21年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会報告について
・平成21年度学校等別外国人留学生受入数等について
・秋田地域における国際交流団体等の事業実施状況について
・平成21年度留学生地域交流事業「秋田の農家民泊－体験から持続的交流へ－」の実施について、報告があった。

協議事項として、

・秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項の一部改正(案）について、協議資料１のとおり、
・平成22年度以降における地域留学生交流推進会議経費について、運営委員長から、秋田大学、秋田県立大学、ノースアジア大学、国際教養大学をメンバーとするワーキンググループでの検討結果について説明があり、この意見を踏まえ協議資料２により、平成22年度「地域留学生交流推進会議」事業計画(案）及び事業運営に係る経費については､「秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ(案)」により、当該4大学が拠出する負担金をもって充てたい旨の提案があり、審議の結果、了承した。

引き続き開催した留学生との懇談会では、吉村推進会議議長の挨拶の後、参加留学生からスピーチが披露されるなど、終始和やかな雰囲気の中で行われ、盛会裏に終了した。

平成21年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会議事要旨

日　時：平成21年11月17日（火）16：00～17：15
場　所：秋田大学本部管理棟第１会議室

⑴　報告事項

①　平成21年度学校等別外国人留学生等受入数等について

事務局から、資料１により報告があった。

②　秋田地域における国際交流団体等の事業実施状況について

事務局から、資料２により報告があった。

③　平成21年度留学生地域交流事業「秋田の農家民泊－体験から持続的交流へ－」の実施報告について

事務局から、資料３により本推進会議主催で中島記念国際交流財団助成事業に応募し採択された助成金を基に、第１回目の「農業体験ツアー」を本年10月３・４日に、第２回目の「収穫感謝祭」を11月７日に仙北市西木町で実施した旨の報告があった。

④　その他

なし

⑵　協議事項

①　秋田地域留学生等交流推進会議要項及び同運営委員会要項の一部改正（案）について

議長から、資料４により平成21年４月１日付けで秋田大学社会貢献・国際交流課から国際交流課に組織替えしたことにより、推進委員会要項第８及び運営委員会要項第５を記載のとおり改正したい旨の説明及び提案があり、了承した。

なお、委員から、運営委員会要項第４第２項の条文中、「委員長は、当分の間、秋田大学国際交流センター長をもって充てる。」とあるが、「当分の間」と表記している理由について質問があった。これについて、事務局から経緯の説明があり、議長から、運営委員長を秋田大学又は各大学等の持ち回りで行うのかということについて審議願いたい旨、また、この案件については推進会議で審議させていただきたい旨の提案があり、了承した。

②　外国人留学生等交流事業の推進について

各高等教育機関及び秋田県から、留学生等交流事業の推進策あるいは支援策について次のとおり説明があった。

【秋田大学】

現在、本学の大学間協定校は、前年同期から６大学が加わり、12カ国25大学になった。さらに数大学と協定締結の準備を進めている。

また、部局間協定校は現在、８カ国15学部等と締結している。国内外の広報活動の充実によりその効果が現れてきていると思っている。

【秋田県】

資料５により、平成21年度秋田県の留学生支援について次のような報告があった。

・AKITA留学生交流サポート事業について、居住費支援及び国民健康保険加入支援については平成16年度から行ってきたものであり、平成21年度においても事業規模は縮小にはなっているが予算を確保している。

・ホームステイ受入支援事業については、今年度は受入側になる日本人家族が200名ほど、留学生・ホストファミリーとのマッチングは100名を超えており今後とも事業を継続していきたい。

・環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業について、本年度は11月以降に秋田内陸縦貫鉄道に乗車し、周辺地域での体験メニューや県民との交流を行う予定であり、日程が確定次第連絡するので、留学生の参加についてご配慮願いたい。

・留学生受入拡大・交流ネットワーク構築事業について、平成21年度から新たに「ふるさと雇用再生臨時対策基金事業」により行うものであり、県内の大学に留学生等の業務を担う専任職員を配置し、日本語学校へのＰＲや留学生拡大につながる取り組みを行うほか、帰国した留学生のネットワークを構築し、海外との人材交流の基礎づくりを行うものであり、現在、秋田大学２人、秋田県立大学２人、国際教養大学1人の計５人を配置している。平成24年3月までの3年間の事業として計画している。

【秋田県立大学】

ふるさと雇用再生臨時対策基金事業により２名が配置されて活動を行っており、今後の留学生の増が期待されるところである。

交流事業については独自では実施していないが、由利本荘市の日本青年会議所交流会が主催し、本荘キャンパスを利用して行っている意見交換会並びに農家民泊に参加をしている。今後も他団体が計画する留学生交流事業にはできるだけ積極的に参加を進め、交流を深めていきたい。

【ノースアジア大学】

議長から、７月４日～５日に実施した高杉祭及び９月28日に実施した韓国語講座について報告があった。

【国際教養大学】

留学生数は昨年度と比較し46名の増、また海外との提携校は現在29カ国、93校と増えているが、本学学生を交換留学生として派遣するためにはまだ十分な数には至っていないため、引き続き提携先の交渉を続けている。

また、秋学期にいる学生で72名が12月で留学を終えて帰国予定である。その学生の代わりに現在、４月受入学生について選考中であるが、全体の留学生数は寮や受入宿舎等の関係もあり、今年度と同数程度の150名～160名を目処に受け入れを予定している。

交流事業については、秋田の自然や文化、人々の生活や祭を見てもらうためのバスツアー、地元の方々との交流を目的とした農作業等体験活動、八峰町や大仙市の小中学生、保育園児を対象とした国際交流プログラムなどを実施している。

【秋田工業高等専門学校】

東北地区の高専間で、学校の枠を超えた留学研修を実施している。今年度は鶴岡高専が当番校となり、１月に実施予定である。

また、昨年、フランスの国立リールＡ技術短期大学と提携し、本年４月から短期留学生３名の受入れをした。来年は、初めて４名の学生を同大学へ交換留学生として派遣する予定である。

③　平成22年度以降における地域留学生等交流推進会議経費について

議長から、昨年度の推進会議において、平成21年度から、地域留学生等交流推進会議に係る事業経費については支出しないとの文部科学省からの通知により、本推進会議の運営経費についてご審議いただいた。その結果、運営経費については、秋田県立大学、ノースアジア大学、国際教養大学、秋田大学をメンバーとするワーキング･グループを設置し、引き続き検討することで了承されている旨、また、事務局から資料６によりワーキング･グループの検討状況について報告があった。

その後、意見交換を行い、議長から、「秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ（案）については、12月18日に開催予定の推進会議に提案させていただき、その際に各大学からの最終的な返事をいただくことで進めさせてもらいたい旨の提案があり、了承した。

④　平成21年度推進会議の開催日程及び提出議題等について

議長から、資料７により説明があり、了承した。

⑤　その他

なし

⑶　その他

・議長から、推進会議を12月18日(金)15時から「秋田ビューホテル」で開催することについて、また、会議終了後17時から開催予定の各大学・高専の留学生を交えての交流パーティーについて、留学生へ周知願いたい旨の依頼があった。

・事務局から、来年度の（財）中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業について、アイデアがあればご提案いただきたい旨の依頼があった。

秋田地域留学生等交流推進会議要項

（設置及び目的）
第１　秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

（事業）
第２　推進会議は、第１に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

（委員）
第３　推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一　秋田地域の関係大学等の長
二　秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者　各１名
三　学識経験者　若干名
２　委員は、議長が委嘱する。

（役員及び役員の職務）
第４　推進会議に議長及び副議長を置く。
２　議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。
３　議長は、推進会議を招集する。
４　副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

（顧問）
第５　推進会議に顧問を若干名置くことができる。
２　顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。
３　顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

（委員以外の者の出席）
第６　議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

（運営委員会）
第７　推進会議の円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。
２　運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）
第８　推進会議の事務は、秋田大学国際交流課において行う。

（雑則）
第９　この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この要項は、平成元年10月17日から実施する。
附　則
この要項は、平成14年９月26日から実施する。
附　則
この要項は、平成17年２月28日から実施する。
附　則
この要項は、平成19年４月１日から実施する。
附　則
この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年４月１日から適用する。

秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項

第１　秋田地域留学生等交流推進会議要項（以下「要項」という。）第７第２項の規定に基づき推進会議運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関する事項を次のとおり定める。

第２　運営委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。
一　要項第３第１項第１号の各大学等から選出された者　各１名
二　要項第３第１項第２号の機関等から選出された者　各１名
三　要項第３第１項第３号の学識経験者から　若干名
四　その他推進会議が必要と認めた者　若干名
２　委員は、推進会議議長が委嘱する。

第３　運営委員会は、留学生等の交流推進に関し必要な事項について審議する。
第４　運営委員会に運営委員長を置く。
２　委員長は、当分の間、秋田大学国際交流センター長をもって充てる。
３　委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
第５　運営委員会の事務は、秋田大学国際交流課において行う。

附　則
この要項は、平成元年10月17日から実施する。
附　則
この要項は、平成11年10月27日から実施する。
附　則
この要項は、平成14年９月26日から実施する。
附　則
この要項は、平成17年２月28日から実施する。
附　則
この要項は、平成19年４月１日から実施する。
附　則
この要項は、平成20年12月19日から実施し、平成20年２月13日から適用する。
附　則
この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年４月１日から適用する。

秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成21年12月18日

（趣　旨）
１．秋田地域留学生等交流推進会議要項第９の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

（事業費）
２．推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

大　学　名	負担金
ノースアジア大学	80,000円
秋田県立大学	80,000円
国際教養大学	80,000円
秋田大学	260,000円

（事業年度）
３．推進会議の事業年度は、毎年４月１日から翌年３月31日までとする。

（負担金の納入）
４．負担金の納入は年１回とし、納入に係る事務は秋田大学国際交流課において行う。

附　則
この申し合わせは、平成22年４月１日から実施する。

秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成21年12月18日現在

区　　分	所　　属	職　名	氏　名
国･地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所　長	佐　藤　　伸
	秋田県	知　事	佐　竹　敬　久
	秋田県市長会	会　長	穂　積　　志
	秋田県町村会	会　長	齋　藤　正　寧
	秋田市	市　長	穂積志
経済団体	（社）秋田県経営者協会	会　長	新　開　　卓
	秋田県商工会議所連合会	会　長	渡　邉　靖　彦
	秋田県中小企業団体中央会	会　長	米　澤　　實
	秋田県商工会連合会	会　長	村　岡　淑　郎
	秋田県農業協同組合中央会	会　長	木　村　一　男
	（社）秋田青年会議所	理事長	小　畑　宏　介
国際交流関係団体	秋田ロータリークラブ	会　員	江　畠　清　治
	秋田国際交流団体連絡会	会　長	佐々木　正　光
	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	鈴　木　研　一
学識経験者	秋田魁新報社	相談役	佐　藤　暢　男
大学･高専	ノースアジア大学	学　長	小　泉　　健
	秋田栄養短期大学	学　長	小　泉　　健
	聖霊女子短期大学	学　長	平　垣　ヨシ子
	聖園学園短期大学	学　長	青　木　光　子
	秋田県立大学	学　長	小　林　俊　一
	国際教養大学	学　長	中　嶋　嶺　雄
	秋田工業高等専門学校	校　長	山　田　宗　慶
	秋田看護福祉大学	学　長	佐々木　英　忠
	秋田大学	学　長	吉　村　　昇

秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿

平成21年12月18日現在

区　　分	所　　属	職　名	氏　名
国･地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所　長	佐　藤　　伸
	秋田県学術国際部	学術国際政策課長	田　中　昌　子
	秋田県市長会	事務局長	木　内　鑛　生
	秋田県町村会	事務局長	関　　正
	秋田市企画調整部	企画調整課長	工　藤　喜根男
経済団体	（社）秋田県経営者協会	専務理事	高　野　　力
	秋田県商工会議所連合会	常任幹事	佐　藤　貞　治
	秋田県中小企業団体中央会	事務局長	斉　藤　信　郷
	秋田県商工会連合会	専務理事	髙　橋　敏　生
	秋田県農業協同組合中央会	常務理事	佐　藤　　実
	（社）秋田青年会議所	副理事	荻　原　慎太郎
国際交流関係団体	秋田ロータリークラブ	会　員	江　畠　清　彦
	秋田国際交流団体連絡会	事務局長	石　塚　則　夫
	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	鈴木研一
学識経験者	秋田魁新報社	専務取締役	沓　澤　伸　義
大学･高専	ノースアジア大学	別科長	阿　部　時　男
	秋田栄養短期大学	短大部長	鎌　田　幸　男
	聖霊女子短期大学	学生部長	三　森　一　司
	聖園学園短期大学	学生部長	腰　山　　豊
	秋田県立大学	学生部長	森　　宏　一
	国際教養大学	学生部長	前　中　ひろみ
	秋田工業高等専門学校	副校長（教務主事）	対　馬　雅　己
	秋田看護福祉大学	学生委員長	八重樫　裕　幸
	秋田大学	国際交流センター長	田　中　俊　誠

秋田地域留学生等交流推進会議運営による
資 金 貸 与 制 度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。

貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。

また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

1．目　的　　私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生等（同居家族を含む。）が緊急に必要とする資金について、希望により貸与を行う。

2．内　容　　民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。

3．金　額　　貸付金は、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。

4．申　請　　貸与を受けようとする留学生は、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金申請書（別紙様式１）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。

5．選　考　　本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、運営委員会委員長が選考する。

6．貸　与　　貸与は所属の長を通じて随時に行い、貸与を受けた留学生は、借用証書（別紙様式２）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。

7．返　済　　貸与月の翌月から10カ月以内の月払いとする。なお、返済期間中に帰国する場合は、帰国前に全額を返済するものとする。

8．事　務　　貸与についての事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務担当の秋田大学国際交流課が行う。

9．その他　　貸与についての細部は、運営委員会委員長が別に定める。

附　則

1．この要項は、平成13年11月28日から実施する。

2．秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

附　則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年４月１日から適用する。

附　則

この要項は、平成19年４月１日から実施する。

（別紙様式１）

秋田地域留学生等交流推進会議
貸与制度による貸付金申請書

申請金額・事由 1．予約金 2．資　金 円	
返済予定期間	平成　　年　　月　　日～平成　　年　　月　　日（　　回）
指導教員等の意見	（所属学部，研究科等） （職　名・氏　名）　　㊞

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により，貸付を受けたいので申請いたします。

平成　　年　　月　　日

秋田地域留学生等交流推進会議議長　殿

申請者
（所属大学等，学部，研究科等）

（氏　名）　　㊞

（別紙様式２）

借　用　証　書

金　　円

上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として，下記により借用しました。

記

1．借用については，秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従います。

2．この貸付金は，平成　　年　　月　　日までに，毎月　　円を月払いにより返済いたします。

平成　　年　　月　　日

秋田地域留学生等交流推進会議議長　殿

借受人
（所属大学等，学部，研究科等）

（氏　名）　　㊞

推進会議へのご意見や情報提供について

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」（毎年３月上旬発行）を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までどしどしお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。

「秋田の農家民泊―体験から持続的交流へ―」では
2回にわたりツアーを実施し、仙北市西木町の農家の
みなさんと交流を深めた

あきた留学生交流　第22号

（2010.3発行）

編集・発行　秋田地域留学生等交流推進会議事務局
（秋田大学国際交流課）

〒010-8502 秋田市手形学園町１番１号
TEL（018）889-2856　FAX（018）889-3012
E-mail kokusai@jimu.akita-u.ac.jp